



立事記との也。上王公より。下賤人より。ゆづく。冥加なるを。人作て。一つと。ゆくふわづ。大事く。て。す。べ。き。後也。

享保九歳仲冬上旬豊後岡岡佳輔仁堂關一樂翁八十一歳記之

冥加訓卷之一

一五福の第一壽命。これいひのれなきは。第二富。是は天祿のそかりて。不飢不寒財用乃ど。が。か。さ。り。は。第三康寧。これ。五事。安穩。と。災難憂苦の。これ。を。四。悠好徳。これ。道德と。これ。義理を。これ。を。第五考終命。これ。天より受得。る。冥加。なり。を。この五つ。の。い。ふ。福。と。い。ふ。天。より。肝心脾肺腎の五臓。仁義禮智信乃。

五常のちく。此五つは福也。同くさうきとを
 給ふ事なり。生れ後加増ふの。わが人に
 あれといふこと。分際といふ。餘も不足も
 ちり也。俗に天道人をつさずや。天の太
 徳も病難貪苦や。死果や。何れふ
 めてい給ふべきや。多分より。わがらんて
 欠ありいて。六極となる也。六極といふ。第一
 凶短折。いふ。壽命のさうたのう也。若死を
 いふ。愛死ととりぬいふ。第二貪。いふ。富の
 貪。貪の字は。貝をとりふて。そをいふ

あり。富の内なる。一錢とれば。一錢とれば
 の貪なり。十錢とれば。十錢とればの貪也。ゆ
 り。太分の。金銀財寶とや。それつりある。冥加
 は富をばういふ。それと。跡がる。みなり。
 うのつり。跡の富が。ひさや。それと。みなり。
 たり。それと。人。施。わが物。わが
 いく。又。わが。利得。いふ。それと。みなり。
 人をば。みなり。いふ。わが。わが。わが。
 て。く。わが。いふ。わが。わが。わが。
 減。人。わが。足。節用。而。愛人。いふ。

とくべ。わづ富も十分。人の富も十分なりと。人
の富を二分。わづ方へ取てさるる。その二分が。
わづ方よ。餘りゆへ。おれてさる。わづ物さる
ど。恃而入貸なりゆへ。當分へされば。そそ。サセ
くろく。一度い恃而出り也。又わづ十分の富
の内を。二分人よ。あてさる。わづ方よ。二分の
不足ありゆへ。そのうちさる。天よりなりて。
くさる。ゆへ。おろく。富あり也。さる。わづ
取まづ。物をとれば。十双倍とて。天より取
さる也。取てさる。ものを。先人よ。あてられ。十双倍

とて。天より取。てくさる。是は必然
は。さる。とて。さる。事なれ。元夫のあはし
さふ。當分より。さる。事なれ。縁中
取。さる。事な。さる。先取。い。笑止
千万なり。事なれ。その人れ。さる。事
なれ。貧窮が。すね。外より。さる。事
な。第三疾と憂い。康寧の及なり。疾
い。病氣とて。彼此が。み。身体は。安。さる。
憂い。さる。の災難。あり。家内不和。て。
か。寧ろ。さる。天より。さる。冥加

の康寧^{くわんねい}も。さうして。疾^{しやく}憂^うの極^{ごく}を。さうする
なり。是^{こゝ}は。何^{なん}なる。氣^きの毒^{どく}千万^{せんまん}なる。され
ども。つづぬ。さうする。天^{てん}をも。人^{じん}をも。
さう。さう。さう。さう。第四^{だいよ}惡^{あく}。是^{こゝ}は。悠^{ゆう}好^{こう}德^{とく}の
反^{はん}なり。學^{がく}問^{もん}を。さう。さう。道^{だう}德^{とく}を。さう。仁^に義^ぎを
さう。賢^{けん}と。福^{ふく}と。倭^{わい}を。さう。剛^{かう}惡^{あく}と。さう。
身^みを。さう。家^けを。さう。是^{こゝ}は。冥^{めい}加^か。さう。
り。り。德^{とく}を。さう。さう。それ。それ。つづぬ。
惡^{あく}の極^{ごく}と。さう。第五^{だいご}弱^{じやく}。是^{こゝ}は。考^{かう}終^{しゆう}命^{めい}の
反^{はん}なり。氣^き作^{さく}柔^{じゆう}弱^{じやく}。器^き量^{りやう}なく。道^{だう}德^{とく}仁^に

義^ぎ。結^{けつ}事^じ。是^{こゝ}は。冥^{めい}加^か。行^{ぎやう}と。さう。
氣^き隨^{ずい}墮^だ。落^{らく}め。冥^{めい}加^かの天^{てん}命^{めい}と。はく。さう。
さう。さう。さう。はく。さう。さう。さう。
福^{ふく}と。さう。さう。天^{てん}道^{だう}也^{なり}。冥^{めい}加^か。さう。
極^{ごく}と。さう。是^{こゝ}は。非^ひ也^{なり}。義^ぎ也^{なり}。氣^きのゆが
ひ。天^{てん}の氣^きも。さう。つづぬ。身^みのゆがひ。
なり。ひ。天^{てん}の氣^きも。さう。つづぬ。身^みのゆがひ。
の強^{きやう}弱^{じやく}。さう。さう。さう。さう。
ゆがひ。さう。さう。さう。さう。さう。さう。
さう。さう。さう。さう。さう。さう。

一福の極よ。愛せむ。何事ぞとね人ば。飲
食名のこらと。貪瞋病のこら也。その外も。
數くあれども。このこられども。いふ事あり。
飲つて。いふの事也。た湯茶のちども。湯茶
は。みづのいふ事なり。酒の害なる事。
けり。たれなり。肺金を多むらう。臟腑を
くさる。筋骨とゆる。正氣をんぞ。損
のこらて。益なり。そのこらに。いふ事。
たれなり。天禄の心と。きり。て。求ふ人。
る。きり。貪。成。用。そ。人。の。物。

る。取。物。を。きり。信。を。し。た。い。人。の。朝
を。け。あ。ま。る。人。醉。狂。て。妻。子。と。い。く
て。他。人。と。争。闘。め。乃。眞。加。の。つ。と。め。る
事。也。病。氣。短。命。これ。より。た。る。也。食。を。い
は。喰。物。なり。た。飯。汁。餅。麵。類。と。食。を。い
ふ。も。う。た。れ。な。る。こ。の。い。ふ。事。なり。魚。鳥
肉。食。の。害。なり。た。る。事。を。い。ふ。事。なり。厚
味。る。物。な。れ。ば。口。を。い。ふ。事。なり。い。ふ。事。
て。過。る。事。なり。脾胃。熱。を。い。ふ。事。
咽。る。事。油。氣。つ。て。濕。熱。生。じ。痰。を。い

至す。これより癰疽中氣の疵しづなり。病氣短命の本と云ふ也。色といふ。女色じょしき男色だんしき。わづらふ事なり。尤本妻みづからの交まじひ。かぐとまふれども。是ハ常つねめとて。けしきけしきなり。色いろより。やうて。かぐれども。ゆきなり。色いろより。妾めかけや。腰こしえはけいみみぬぬけけ。あまろく人ひと兒こ若わか衆しゆとるとり。晝ひる夜よの不ふ養やう生せいるる移うつめつとて。は。乱らん酒しゆ厚こう味みををめめ。陽やう事じををねねし。真しん陰いんををははつつやや。冥めい加か一いつとといい。餘よ計けいををみみるる。壽命じゆまいと。霄せうのの内うちは。はは舞まふふ。愚ぐ痴ちののつつりり。

なり。其期よのぞんで凡六味九八味九四花
患門乃。冬と用ぬを以て。死亡ぬいてを。父母
のたがひに。妻子わづらひて。言語よのぞく。
命ありての人のなくさみあるふ。死く何乃
益あるや。冥加乃ほそくもの也。貪欲といふ
は。ひとより欲といふも也。欲といふもの。人
情乃きなり。も。男事なり。飢多。食と欲
し。渴して水を欲し。寒き時衣と欲し。は。
わづらひさきなり。ふ。分よりたがひて。衣。食。住
ろ。衣。を好む。よれ。人より。く。あ。あ。き。事

かく。金銀等も。有るも。や。何に。じ。や。り
求む。是事。を。た。だ。わ。づ。分。り。て。あ。る。事。を
く。人。の。物。と。し。て。取。わ。る。い。ハ。剥。わ。る。い。
殺。て。も。取。わ。る。い。か。る。事。也。是。大。に。冥。加。の
疵。の。け。く。也。瞋。恚。と。い。い。る。と。腹。と。い。う
事。也。是。も。氣。を。な。て。だ。色。を。あ。う。と。い。う
事。也。是。も。人。と。さ。事。を。な。て。も。す。ん。ん。と。腹
を。な。て。ば。く。と。さ。み。を。却。て。命。の。う。つ。か
し。な。り。と。い。う。い。ハ。胸。を。あ。ぐ。く。少。紙。ぬ
く。と。命。の。損。と。さ。事。也。短。氣。と。い。う。は。短

命。の。相。た。り。大。に。害。な。る。事。也。何。事。も
い。う。と。い。う。と。な。づ。く。後。也。冥。加。の。け。く。事
なり。痛。く。い。ハ。愚。痴。の。け。く。也。愚。鈍。め。て。智
恵。の。あ。れ。も。の。い。物。の。善。悪。是。非。と。か。別
と。る。事。な。う。と。い。う。人。是。も。非。の。け。く。と。い。
非。も。是。の。け。く。と。い。ハ。一。圓。埒。わ。う。と。い。ハ。一。
愚。智。一。種。の。も。の。は。ま。ま。と。可。也。邪。智。は
多。う。わ。づ。く。と。い。ハ。我。憍。や。て。自。と。是
と。な。り。人。は。是。ハ。非。と。い。ハ。強。う。く。い。ハ。み
わ。る。い。ハ。非。と。是。と。い。ハ。是。を。非。と。い。ハ。無。理

別中古の来い。百年と上壽と八十と中壽
と六十とを壽とす。是皆悠好徳の天の
授とくほりて。壽命と得るものなり。又
長命といふ。生てはききものなり。五停不
具たり。悪くも。人の害なり。くも。ふ
くま。死にたり。かたり。道德仁義
を。ききこの。くも。壽命は生れ得るを。
天罰人罰を得て。くも。くも。也。善則
得る不善則失くるといふなり。くも。
わのくも。と来也。

一富と五福の第二とく。くも。國王と得る
くも。乱逆くも。世間静謐くも。火雖水災。
くも。大旱くも。凶年くも。飢饉疫癘。
くも。安穩くも。富貴くも。是皆分
くも。奢長くも。天地位を。萬物育せ
たり。悠好徳乃冥加。くも。くも。くも。惣
いて天より。くも。授與くも。福のほり。不
飢不寒を極くす。米と鹽と水外に。云
用乃奢たり。米と鹽と水とをくも。食と
脾胃と實。皮膚と満して。骨すなり。

なり。田疇野人の境界をわたり。さうも、病
めて長命。子孫も繁昌して。代々永く、い
はれ、事也。魚鳥や酒食を飽満く。安樂
めく。後、王公大人、脾胃より。皮膚
より。筋骨より。病氣をて短命。子孫
もたふ。さうも。柔弱なり。血脉なく
は。さきより。是。慥なり。證據あり。ほ。て。や
餘計。も。た。天禄と。衣食住の奢め。は。り
し。後。ゆ。人。跡。の。る。物。さ。て。饑。み。
る。い。ふ。ふ。り。た。右。前後。つ。て。さ。れ。て。わ。れ。は。

と。咽。よ。さ。れ。る。べ。飢。死。同。前。なり。大。名。高
家。の。服。と。も。ぬ。く。も。なく。式。合。り。こ。合。の
より。よ。し。決。て。い。は。れ。目。鼻。口。耳。の。足。腹。背
の。毛。頭。の。る。事。な。り。さ。く。衣。冠。の。さ。く。く。
家。居。の。奇。麗。さ。る。さ。て。あり。さ。う。ふ。衣。食。住
の。美。し。く。善。は。く。く。奢。榮。耀。に。さ。り。給
ひ。い。い。眞。加。の。つ。て。天。の。さ。う。さ。い。結。い。ね。也。
上。よ。さ。る。ふ。所。方。自。分。の。身。に。奢。と。は。く
禁。民。よ。さ。く。後。い。は。れ。す。の。千。万。人。又
よ。し。さ。れ。る。所。方。自。分。の。身。に。奢。と。は。く。

民乃物を貪取する人。哀じもの千万人。その
千万人。あはれむ。悲しむ。悲しむ。悲しむ。悲しむ。
その。その。その。その。その。その。その。その。その。その。
なり。堯帝の舜は告ぐ。四海困窮をば。
天祿永続との。峻宇彫牆。此は一つ。
わは。亡るは。なり。なり。なり。なり。なり。なり。なり。なり。なり。なり。
縁け。縁け。縁け。縁け。縁け。縁け。縁け。縁け。縁け。縁け。
さ。
く。
一 康寧を。五福の第一。長生。富貴。

あはれ。あはれ。あはれ。あはれ。あはれ。あはれ。あはれ。あはれ。あはれ。あはれ。
静謐。静謐。静謐。静謐。静謐。静謐。静謐。静謐。静謐。静謐。
富。
け。
福。
加。
一 悠好徳を。五福の第四。番。長生。富。
け。
ゆ。
け。

徳をこのむといふ。肝要の事なり。悪と善と愛と。凶と吉と愛と。也

一考終命を。五福の第五番とん。是は天道なり。も得る真加の。長生と富と。康寧と悠好徳と。四の物をひくといふ。全くはくして。老老ととん。何の苦痛もなく。枯木の風。すくなく。幸とといふは。天命をはくして。五福の福をそる。真加をよく得る。も。いふ。也。吉慶はたれ也

一生計る真加す。一生すよとよん。こす。ふなり。あ。い。す。十の。る。す。なり。す。なり。物なり。成。ふ。なり。外。う。く。屋。れ。く。く。なり。い。や。も。草。本。と。の。物。け。け。さ。る。す。尺。あり。竹。の。子。な。も。一。尺。や。二。尺。の。間。の。さ。く。さ。る。べ。後。い。雲。を。と。い。く。わ。く。べ。け。と。も。す。れ。つ。き。る。ま。け。あり。う。れ。より。よ。ん。一。す。と。の。い。と。人。と。知。さ。る。く。れ。の。さ。く。の。い。と。後。と。天。う。と。さ。く。さ。る。と。も。の。い。と。の。い。と。後。

は。一寸もの位も。人の年齢福祿を盡す
かゝるの事あり。生得てのら。おもしろいの外高
位高官多し。のちのちの事。是も生得の
眞加の内なり。生れつゝ分をばくし
くくつゝものなり。大舜の農民の事にて
天子れ位よのちも終ふ。是も眞加のうられ
命なり。おれどもに大孝をばくし。大善
なされど。生得の福も。得ておもしろいけ
し。福よりよ好徳をなす。終ふゆへなり。
外のもの。又舜れおれどもにばくし。みま

天子に。かゝる事あり。わづら。桀紂は天子の位
に。生れつゝ人の事なり。大虐大害な
たされ。おれどもに。死に。おれどもに。是
を。おれどもに。眞加。おれどもに。上
の。おれどもに。成る。おれどもに。下
の。おれどもに。事なり。おれどもに。おれどもに。大
善。おれどもに。好徳の福を。おれどもに。おれどもに。
く。寿と富を。おれどもに。おれどもに。おれどもに。
べ。大體の。おれどもに。日。おれどもに。おれどもに。方
なり。おれどもに。おれどもに。飲食。おれどもに。おれどもに。貪

瞋痴乃二毒也。あつされて。病氣となるを
早世と云ふ。行迹あつて身上はつる。天
命のつれづれなり。善も悪とはまひハ吉凶
のちやいさなり。うのう一寸善と云
ば一寸のい。一寸悪と云れば一寸減と。あつ
一は事也。人に元来善なりと云ふは
よく善をばと云ふはた。あつはた
悪いであつて人少く少く悪と云ふはた
をうと云ふ吉凶のちやいさなり。一寸成
も。善と云ふて樂と云ふ。善と云ふて

か。か。あつて事なり。事なり。悪と云ふは
をうと云ふは。氣味あつてなり。あつて
のようなり。あつてなり。あつてなり。あつて
天罰のつれづれなり。あつてなり。あつて
をうと云ふは。利得をうと云ふは。あつて
ゆへ。あつてなり。あつてなり。あつてなり。あつて
う。あつてなり。あつてなり。あつてなり。あつて
をうと云ふは。あつてなり。あつてなり。あつて
ば。あつてなり。あつてなり。あつてなり。あつて
と。あつてなり。あつてなり。あつてなり。あつて

依り。よく天をうごめ。眞加を得る者なり。人々五福にそれらをもつても。同く聖人としても。不仕合して。雖も色結みなり。人乃不審とる事也。文王乃姜里よりつれ。周公乃諛言小あり。夷齊の餓死。孔子乃貧窮顔子れ短命。伯牛乃惡疾。凡まのやうは。冥加のたぐ。不幸なるやうにわたり。も。う。こ。の。軀殼の上。身れ外の事也。亦公の徳。い。や。わ。く。の。増減なく。公乃樂。も。顔。く。の。事。一。惡人ふも。長命富貴なり。の。あ。れ。ど。も。

了。我。い。て。境界の花。あ。れ。て。公乃卑。幸。勞。名利の公。は。損得の氣。あ。つ。て。い。や。同。と。ち。く。夢中にも。安堵き。一。類。い。や。免。他人も。う。み。つ。つ。也。公乃樂。な。る。事。い。や。中。福。い。や。こ。く。富貴貧賤。目をは。も。徳。と。り。善。を。あ。れ。て。み。て。天道。さ。る。事。あ。る。や。わ。さ。事。い。や。孔子の匡人。さ。れ。を。い。ん。桓。魋。う。れ。わ。い。んと。天。は。ゆ。り。を。ち。く。な。れ。て。わ。る。ふ。

強壽不貳。身と修て俟といふ是なり。それ
しつ身をとねまじ。善はなまじして天の
ほろをうかひ。何の益あるや。耕耨も
まじして穀の實のうを待たざる。まじし
くまじるゝなといふはまじく。實のうは
天よりせらるる。凡情に欲かゆ人實のう
いひまじる。まじきも。善をまじく。善草
まじるまじきまじり也。又地よまじる種
のうまじる。まじき。まじきとまじる
らば。まじきまじり出づ。まじきまじり

まじきまじり。まじき種がまじり出づ。梅の實は
桃の生まじ。瓜の生種は。茄子はまじり也。
まじり。天の命をまじる。凡まの
まじり。まじき。まじき。まじき。まじき。
うんで善をまじり。種。悪をまじり。まじり
まじり

一わが身ハ随分。米と鹽と水ふて。いのちを
中たふをまじり。若一汁一菜をまじ
り。結核をまじり。有かくなまじり。
天祿の冥加をまじり。人よまじり。

情をうつらうて。明てもくなくも。世に
根をうつらうて。つづき事あるべし。
は。うらもの。別て思ふ存ぞ。ほい
れでうらなり。非常の功を賞し。非類
徳をわけ。貪とをく。若くもふ人。
一と思ふ。い。感ふもの也。

眞加訓卷之二

一朝八日乃光。鳥のなくと相圖よ。たて。
手水をはく。髪をゆい。所より。
面くのはく。い。き。家業天職を。ほく。
王公より下庶人。い。は。合相。い。
職分。上り。い。方。い。職分。い。
なり。國天下。い。い。方。い。器。
量才徳。い。治。事。い。先。い。
徳を。い。民。い。い。い。
國。朝古今。の。事。跡。を。い。い。盛。

表文武の業に達し終りては民の人情飢
寒勞苦を知らず事あるに終りては
其大名高き家ハ金銀財宝ハ比ふべからず
吾輩榮耀よくし終りて揚々と自由ありて
いざうたふ事。さむくは知れぬなりと。家老
用人まうせ。後人後を以て治すべしと。され
所よりたつてき事と。さうぬいど。あむ役
人より治す。賢徳の人を以て治すの君と。
明君名將あり。さうさうさうさう。賢
徳あり人といふのハ世はまれなり。サヤクハ

凡そふれい。欲んす。榮耀をこの。あま
つて我々權柄人をおさる。下はく。一
智ふなり。威をわたり。花火をこけと。
酒色と事。學文をこけ。諫とさうい。
下回いらけのやにや。其身ハ終りて。
一のさうゆ。上を諫め。下を制する事と。
あう。まう。侍るもの。似合相
通。上とさう。下はく。まう。もの。向上
なり。文武ハ徳業。まう。事ハ及べど
とも。さう。後書。算用。まう。武士ハ

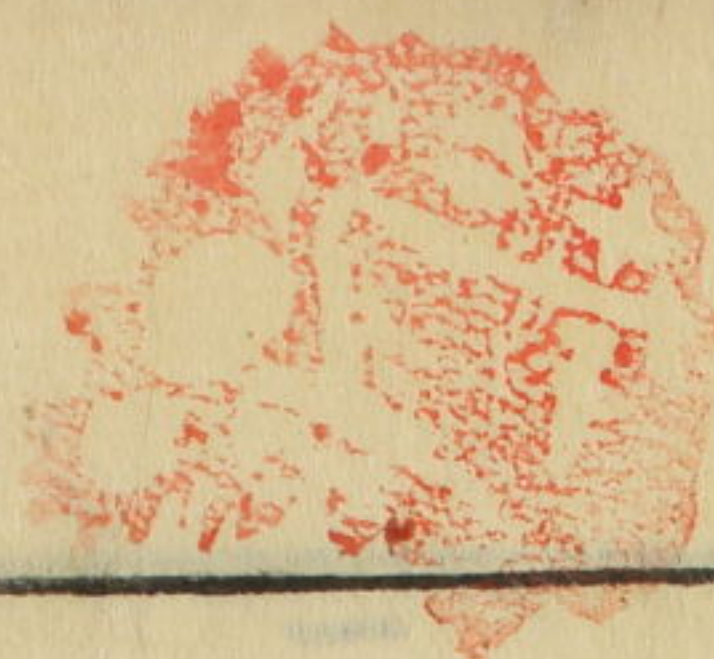
尚用。事なりをぬらぶふんづけ。何時何役と。
上より作付しきては。けふのやふん。を
いかなる人さ事なり。たふけきば。官
禄をぬらふ。けふとつすの也。君より素
餐で。つす是なり。先祖より功め。位
牌を。つすのを。取て。居る。て。わら
つ。い。本意なり。事也。お。今。裸。多。物。て
れ。う。れ。わ。の。代。い。つ。う。あ。く。人。の。付。の。力
や。た。ら。が。士。の。一。か。の。さ。つ。つ。の。也。名。作。の
叙。薦。は。け。え。と。れ。て。も。お。う。代。乃。す。て。さ。ら

が。く。人。の。か。の。あ。く。を。得。く。は。け。し。う。で。か
う。だ。武。士。の。冥。加。か。り。と。なり。農。人。ハ。新。馬。の
あ。く。時。より。わ。と。て。耕。作。の。事。と。は。く。人。の。力。を
と。つ。う。と。だ。達。者。よ。なり。て。う。れ。わ。の。力。
命。つ。に。う。と。だ。の。富。が。さ。ら。も。地。同。く。足
ゆ。り。也。職。人。商。人。み。み。れ。れ。ト
一。名。角。身。を。つ。い。年。足。を。う。れ。し。て。け。が。職
業。を。は。け。し。て。う。の。さ。ら。も。天。より。の。足。と。わ
く。を。た。さ。る。ま。其。身。ハ。樂。を。て。人。を。け。し。
人。と。う。れ。し。う。事。に。わ。ら。ず。勢。あ。れ。し。て。驚

一 不^レ了見^レたり人^ハ。朝^ハなり終^ハなり。日^ハをけあ
たり^ハ少^シ生^ス氣^キを^レん。膝^ハく^レて頭^ハ重^シく^レ。

了。おぬぬ。召使のともねハ。男女ともう
く。い。夜食ハ用いど。酒とのまだ。けう
と。夏ハ蚊よ。くれ。冬ハうも。た。物と。え
ま。む。く。え。又。明。お。ね。早。く。お。て
も。き。骨を折。何。う。う。う。く。お。よ
づ。も。冥。加。よ。う。う。て。大。切。な。う。寿。命。を
る。富。を。う。う。目。の。あ。え。う。う。
なり

一門戸をなくひきき。井路門庭竈と奇
禰。掃除。草とぬき。知。う。あ。い。う。い



垣壁乃破損。戸障子のけくろい。ぐりてん
ぐ。う。う。う。い。う。う。井路庭門竈は
五祀とて。神のゆも。た。不。なり。大夫より上
う。その祀なり。大まより下ハ。位。た。い。人
は。つ。人。非。禮。也。う。れ。と。て。も。その。え。う。は
有。と。は。なり。門路庭ハ。人。の。け。た。と。あ。不
る。い。草。を。取。塵。を。け。い。奇。禰。よ。う。す
べ。君。の。勤。氣。と。あ。う。親。ハ。服。と。い。れ
ど。門。の。う。う。草。も。う。い。あ。い。と。わ。る
なり。う。う。う。う。い。人。の。出。入。を。あ。い。う。い

つらつらとつた。目出度事也。湯茶のほめ
え。人もの入る。少しきのくにならる。井の水神のほめ。家内けり。けり
を。つて。朝晩の食事。湯茶洗浴。つて
つて。事なれば。水は恩ふ。年也。歳乃
始。若水を汲。精のふ。少獻
ふ。清れと。上へ。同く。自身上へ
着て。再拜。つて。電。電神。つて。これ
と神のほめ。俗。土宮。つて。家内
の。一年中。朝夕。煮焼。洗浴。つて。

い。事なれば。恩を報。さ。年のうれ。
燭。香。清酒。主人。将衣
束。わ。再拜。一禮。上へ。毎月
廿八日。香。再拜。つて。可。さ
一。天地の恩。大切。有。な。天は
我を。地は我を。生。五
三十。五十日。雨。つて。日光。つて。五
穀。野菜。生。柴薪。事。け。濡物
く。難。な。ふ。さ。め。つて。め。
日。つて。万物を。く。の。さ。

二十日五十日。日でりて雨ふくもんづ。飲水
もされ。作物ももぐら。難後よふべき。
よれたるに雨ふり。雨後のみふり。
人よぬふふ事。のどけなれども也。明言
天地と。かぐさ。おれん。雨をぐりてき。のど
くちの。風をそそき。のどちの。日久し
て。めいなる。あつて。天地をうん
づ。づ。天道ハ一。びハ性。一。びハあり。
屈伸と。ふ。は。て。一人の。ふ。私。ふ。
ま。より。私。ふ。の。が。風。より。私。ふ。より。

風といふ。ふ。は。な。の。道理あり。面く。遇。雨の。
は。合。ふ。なり。天道の。あ。つ。い。ふ。ふ。と。う。
み。ふ。不足を。も。頭。づ。づ。何。れ。泣。
さ。け。ん。でも。ふ。ふ。事。也。を。の。ま。い。を。
な。は。く。ふ。の。た。く。天道。一。び。は。ゆ。す
べ。我。ふ。と。い。ふ。ん。若。ふ。ふ。は。あ。ふ。なる。さ
ま。だ。加。護。ふ。ふ。ふ。ふ。その。冥。加。て。火。り
く。も。ふ。け。ふ。ふ。水。は。入。く。も。お。れ。死
ふ。と。う。鉄。炮。の。あ。つ。ふ。ふ。世。の。中。に。ゆ。
う。て。災。難。疾。病。も。あ。つ。ふ。ふ。ふ。ふ。是

やどけつちる事ハミ。どく冥加を。
大幸ぬいさどー！

一 備五好の思おもひなり。一日ひとひ片時もあらずに。
 そらす代用なくふ事也。竹本といふもの
 なくして。家居いけとはいふもさうに柴薪そんたきぎ
 あらずに。朝夕の飲食も。煮焼ゆやくあらず。此
 竹本の恩おんなり。成るのみあらず。さうふり
 かり。いまだに焼やきもて。炭火すみびもはかえよ。おに
 じ。家居いけと。花菱はなびしと。このもて。竹本とはいふ
 事。眞加乃ほくる事也。山林さんりんは生なまむら。

なり。水とつりあひては。飲水に用意。飯羹
のちり。物をうけり。火をきく。草木は
生長。五穀の生熟。ふこの雨。霧。海。あ
みよつて。用をきく。水。自由。あれば
とて。人。肩。と。労。足。を。け。こ。ざ。れば。用。あ
さ。だ。右。左。れ。の。恩。う。け。る。事。ふ。あ。げ。人
間の用を。い。う。と。て。天。より。わ。く。後。の。勢。と
つ。それ。火。の。一つ。と。つ。ふ。べ。さ。ふ。天。日。と
水。精。と。それ。ど。う。く。揚。也。火。の。う。ひ。火。の
る。硫。黄。は。も。ど。け。油。灯。も。さ。で。う。き。く。あ

さ。だ。事。を。し。終。り。あ。が。る。事。を。ハ。ナ。レ。ヤ。
う。れ。と。何。と。も。さ。だ。う。き。う。は。無。下。の
恩。さ。だ。具。加。の。事。が。あ。れ。天。道。は。毛。頭。
身。より。も。報。を。え。る。事。は。あ。ら。な。い。は。は。さ
る。る。事。天。職。を。し。終。り。す。で。なり。人
は。万。事。天。に。則。て。つ。と。し。び。さ。依。也。今日
いま。や。あ。ら。天。の。直。傳。と。さ。く。さ。う。あ
ら。道。の。本。原。天。より。出。る。事。は。是。也
一伊勢八幡春日稲荷天神敷地の神
等。い。づ。れ。も。教。う。と。べ。し。け。ん。か。限。り。あ

父母の侍をうけつゝい。その事伝へては。
不孝の罪とすぬれざるべし。冥加のつぎ
うけり事也。あり公儀の仕度をするじき。
家門の恥辱をうけふ事あるべし。なすふ
いさやうもようるべし。うけつゝい。けつゝい
そへは。親の非とあがふやうては。不
孝とすべし。多し。代冥加のけさるる也。
遠近ふようじ。外へ出つゝい。父母よりよて。
あふべし。何方へあり。何時より。べきと
りよる。その時をなすべし。帰るべし。帰る

間い。清氣づいあてはさうくも也。家内ハ
 是より外より歸る時。うき菓子多
 わる。足かけはさううう。扱へ。を俵に。
 歳の餘斗をけとい。一日も大切。存して。
 孝公をけくさう。孝子ハ目録に
 是なり。人々存生の世に込る。おし
 う。油おつ。死後くやむもの也。死後
 くる。何乃益。くらや。冥加のつ。さう
 されども。ううくやうくと候也。没後
 ば。せうく。毎朝。靈前。あり。香をうけ。拜

をいづりて身みの眞ま加か。子孫しそん乃すなは經きやう昌かう家けに安やす
 祿ろくと。祿ろくふべし。若ごと願かんふとる事ことあり。先祖せんぞ
 の神しん靈りやうよ。祿ろくふべし。是皆眞ま加かとる事ことなり

一二番ぬぐ水をはく。髪をゆい。衣服を改
て主君の方へ向く。清目見とるをうと。一
礼をうと。君の清運命清長久。清を病
清息災。清子孫清繁昌。悪魔降伏と。
鈴をうと。次へ又君の清恩をうと。飢寒を
をすんぐ。是家円安。後よくよくし奉る。わう

かゝる事なむ。觀念かんねんして。付なまものお夕の食物を
歎なげみて。今日君乃賜たまはと事なむ。毎度頂戴ていだい
して。多量食物を給たまは。衣服と暑しむと。何
方かたは。主君の方かたは。跡あとを。て。用もちへ
て。是こゝを。冥みよ加かめ。事こと也。

一三番。文武の師家。その外わが家業の。
元祖々々方々向々。拜々々々。師の清く純
くして。今自身をさす。道々々々。職を守り。
業々々々。その功々々。家四飢寒をさす。
つと。月々々々。をさす。師の恩深々々。

なして。神をたしむるがよれなり。神を君
又師のころハ。恩のいふべきもの也。又ハ世身
をさばむ。師ハこの身をさへ。君ハこの力
と。中まいるふ。そのころハ。いづれハ。恩と
うけり。方なり。は。口へは。いふ。は。い
ま。人さ。い。い。ん。や。病中。う。愛。あ。り。何。か。ハ
一入。慈。切。り。取。持。用。事。と。あ。る。べ。し。師。ハ。教
と。う。け。り。恩。と。し。て。い。ふ。血。脈。ハ。い。づ。れ。ハ。後
と。し。て。の。一。代。ハ。か。き。い。れ。子。孫。ま。で。通。路。い
ふ。と。い。ふ。事。也。是。の。か。眞。加。と。い。ふ。事。也。

一人ハ。その。わ。が。身。を。も。と。か。が。第一。と。い。ふ。我
身。より。大切。なる。もの。に。わ。け。國。天下。の。人
が。也。凡。情。ハ。い。づ。れ。ハ。我。を。す。く。わ。り。つ。ふ。
みる。わ。が。身。を。屋。づ。り。なり。酒。食。と。い。ふ。
い。づ。れ。ハ。脾。胃。と。中。づ。り。色。欲。と。い。ふ。づ。て。
性。命。と。い。ふ。の。外。不。義。と。い。ふ。道。を。さ
して。身。命。を。損。じ。い。づ。れ。ハ。と。い。ふ。事。
は。な。り。て。みる。や。づ。り。也。と。い。ふ。也。い。づ。れ。ハ。眞
加。と。い。ふ。事。也。い。づ。れ。ハ。眞。加。と。い。ふ。事。
合。点。と。い。ふ。事。也。眞。加。と。い。ふ。事。

るれてうみくも也。人々わきまを。結構
を極なり。人よりされい。至極也。悪人の
身の害也。うみやわきの間。義とい
ふの成。大事なり。天地より人なり。
晝夜人物を生育するなり。天地の
方へ。成るなり。毛頭なり也。法より天地の
の。うみくも。冥加の第一なり。仁といふ徳を
いふ。畢竟人々。物をうみくも。わきまを
なり

冥加訓卷之三

一五福の第一。壽命となぐたもんと
なり。養生の儀をよくし。されば。あ
まうなり。冥加を。生るなり。養生の
儀といふ。第一。氣をよく。おさめて。物を
苦めざるなり。浩然の氣。中なり。
つと。是なり。わきま。悪人なり。行跡
也。悪事あれば。天心よ。あまうなり。人
々。うみくも。まがやめ。覺あり。ゆるい。えん
なり。わきま。つと。すなり。氣づい

る。いそぐ。ふむ。うと。わと。されぬ。行末
と。業と。うと。いつは。患。病の。い。う。也。その。あ。ふ
あ。う。場。は。や。う。ん。で。あ。れ。ば。う。う。あ。け。き。い。う。
や。め。い。い。是。が。あ。け。き。ば。よ。れ。よ。う。わ。れ。い。
よ。れ。ふ。く。や。う。い。う。世。の。中。に。こ。う。よ。ま。
ま。と。ち。く。こ。う。あ。い。ま。ま。も。た。れ。の。也。
得。と。い。じ。い。ほ。う。と。い。は。る。あ。れ。に。生。う。
て。い。う。て。う。め。い。う。ま。に。う。い。ど。ま。う。
その。ま。が。な。う。と。い。は。る。あ。い。て。だ。と。あ。い。
と。ま。を。あ。い。は。い。ま。う。う。人。の。云。

今。も。あ。い。ま。生。け。く。富。貴。な。る。の。欠。け。
ろ。う。後。い。う。と。う。や。曰。心。謙。退。ふ。い。ま。
み。ら。な。う。の。あ。け。き。は。欠。け。は。せ。う。也。官。位。俸
禄。智。恵。才。覚。等。の。い。ま。我。の。の。の。い。
な。れ。う。に。自。慊。と。う。い。人。は。天。道。を。み。
み。く。欠。け。は。さ。う。也。自。分。は。み。ら。な。う。い。
い。う。礼。義。と。あ。け。き。人。と。う。や。ま。い。う。
と。あ。い。ま。の。い。ま。い。ま。を。た。れ。や。あ。感。
あ。う。う。う。易。の。地。山。謙。う。う。い。
う。あ。い。ま。の。い。ま。を。た。れ。地。中。あ。い。ま。

へうろくゆへ。謙^{けん}なる也。福^{ふく}つゝ草。五穀^{ごこく}乃
中のふるとき物^{もの}なる。實^{じつ}のつゝ。誰^{たれ}も
りづる也。人もかくのあつゝ。誰^{たれ}も
あつゝ。や。世^よの中^{ちゅう}れ。事^{こと}は。は。ま。さ。さ。る。もの。之。
命^{いのち}は。か。さ。り。あ。り。事^{こと}の。幅^{はく}を。で。く。す。な。く
こ。ろ。ろ。ろ。氣^きの。あ。つゝ。い。す。ふ。く。て。さ。づ。か。れ。よ。こ
ち。り。り。の。分^{ぶん}際^{さい}。器^き量^{りやう}。より。幅^{はく}の。し。ろ。き。り。
力^{ちから}の。重^{おも}さ。ま。事^{こと}は。精^{せい}神^{しん}。つ。い。て。い。て。や。
て。い。ま。ま。り。寿^{しう}命^{めい}。は。さ。る。也。さ。う。続^{つづ}く。と。い。う。
聖^{せい}人^{にん}。天^{てん}地^ち。の。量^{りやう}。の。さ。る。と。い。う。は。づ。つ。い。う。さ。る。は。

ち。あ。つゝ。け。さ。る。也。元^{げん}夫^ふは。ひ。の。り。日^{にち}せ。つ。た。ゆ。へ。
少^{せう}事^じ。が。あ。つゝ。と。苦^くみ。て。大^{だい}い。さ。な。は。は。さ。
い。り。さ。つ。た。夜^よも。つ。た。り。ひ。あ。つゝ。い。い。た。り。て。も。
夢^{ゆめ}。の。間^{かん}も。あ。つゝ。さ。れ。い。も。名^な利^り。の。欲^{よく}。は。あ。く
い。り。と。是^{これ}。事^{こと}。と。あ。つゝ。上^う。は。上^う。の。さ。み。
一^{ひと}は。あ。つゝ。い。て。あ。つゝ。さ。る。也。身^み。の。り。た。り。て。
心^{こころ}。の。苦^く勞^{らう}。も。す。な。つ。た。り。ね。ん。と。胃^い。乃
氣^き。の。脉^{みく}。の。事^{こと}。あ。り。是^{これ}。天^{てん}地^ち。生^{せい}。れ。理^り。氣^き
を。う。け。て。母^{はは}。乃^{なり}。腹^{はら}。の。中^{ちゅう}。より。せ。し。つ。事^{こと}。な。れ。い。
今^{いま}。藥^{やく}。力^{ちから}。針^{しん}。灸^{しう}。さ。る。と。い。う。は。治^ち。さ。る。事^{こと}。に。あ。つゝ。

善哉行なり。脈を収め也。固脈も亦なり。た
くも徳といふ。人は物をあつてつて。亦人
よりより。聖人乃ちこれの徳也。徳
の中に。教くも。人より小くも。人より物
あつていふ。地は信いふ。恩と感と
の也。この徳も。天に通して。天帝の加護
めあつて。日月のあつて。神の
とけを。この冥加も。命乃ち脈のいて
なり。徳も。人より小くも。人の物と
禁物也。人乃ち物をとれば。とけもの。なげ

く。恨も。天に通して。天帝の
日月乃ち。神の罰を。命の脈を。人
なり。此の命も。人乃ち。智
恵才の。人乃ち。肝要也
一七情乃ち。怒。大さく。害
の。害も。二毒乃ち。の。氣
血を。仁。消亡。智恵乃

鏡もうつかりくもの。うねよりして。人をとが
 免みく。喧嘩に論。あつていひ打つた。殺しは
 一きよのをも殺し。その身も殺害するふ
 ものあり。みる怒氣乃りざなり。怒氣など。
 おそろしきものなり。男はつらき鬼。女
 女はつらき地。夜はつらき角。角と牙とが指
 物なり。このつらきものつらき。いふとつらき。お
 やくい色と財より。物なり。大切なり。冥加
 の中れ。壽命とつらき。おき候なり。五
 分刻もの。短氣なり。つらきものなり。

此方よりあきそとふ。あつてなり。大
 人の小児とあつて。おき候なり。つら
 さいのつらきに。ばかしくなり。あつて。同じく
 あり。狂人。つらき。不狂人。つらき。あつて。
 九まろ。つらき。つらき。八分九分。あつて。つら
 き。つらき。ものなり。五十歩と。百歩のつらき。
 平生。つらき。思と。黙と。つらき。つらき。つら
 公の事なり。然。つらき。事なり。易。つらき。括囊
 も。ぬく。つらき。つらき。つらき。事なり。孔子
 言。つらき。つらき。つらき。つらき。つらき。

かう草なひきけよのい枝葉さうんあて。
ううけきも。根入わく。よきうなるゆん。
ま喰くせもつ。風ぬよふされて。實入うす
さちう。人もすれつとけまんで。魚鳥や酒
うらうと。かきずて。さうものい。疲地みで。
色黒く埋わく。皮肉實。骨うく。志
うゆ人病もかく。長命あり。土民これなり。
酒食あさみら。肥満さうものい。色白く
埋うゆうと。皮うと。あまうさ人。酒食の濃
はく。面目もく。皮肉うりて。瘡火

生じ。中風癰疽。下血痔漏等の疾生じ。
飲食い。人乃身命と。中なるものなれど。
ねづて。分れさるべ。冥加のあてい。うと。
外うゆ人。天禄つとて。さうつら其飲
食ぬ。命とさうねくちう

一男女の欲。いふものも。天性わうづれる也。
是れ天より。あてい。一夫一婦。まて
まて。外ねづりの求るひき。よけきとも。采
種。長くと。分とさうゆ人。冥加がつとて。病
氣短命にかり也。天道はま一人。妻一人

一。さのむりくもやんてり。その證據は。
 日輪と一倅。月帰と一倅。日はま。たも
 女なり。さうれば妻の。二人おぐさやうもあ。
 まの二人おぐさやうもあ。民間乃卑賤
 なるもの。みな是なり。さればまも。其病長
 命。妻も其病長命。はるく子も。其病長
 命也。腎經の人は乃根源。天一乃水なり。万
 物もふ。初ハ一えの水なり。草木もくても
 地のもうやいあけとば。さうも代枯
 びたり。人乃腎の水。さうやいあけとば。

火多きよりて。一身中けこまれて。虚をばしらり
 たり。是は陰虚火動の病といふ。針灸業
 治る。今ふ所よわづ。命ありてのきなり。也
 いのちなり。何の益あり。又。真加のわて
 づい。一生目も耳も。牙齒も足も用れらる。程
 しく。そを人をはたさる。脾腎の中へかん。
 わきふよりて。用いふ。さる也。たとへば。一年
 中。けい用。わてを。さる。今。ねと。むさ
 く。著く。ところ。は。い。る。を。ば。必。さ
 きて。めて。不足。より。也。その。を。俄。天。

あき地はぬ。佛神に寶ふ。いのちを
こし。一錢ももれでさる也。人の性命を
うのちけり也。金銀はまじく人のいのちを
利息とくほとくたれ。のたまふ人さ
う。人へのいのちを倅へ。人よりくさ中うたし。
さうふちれてさふいなし。自由はわんて
はきしゆのいぬさ。たれがは合さる。ある
位し。まじく。勢い。いささる方う。富有。財
サ。たれもの。奢。い。で。た。れ。わ。ん。て。婦。人。み
ほ。い。ろ。人。精。分。つ。さ。て。病。氣。短。命。な。り。

ち。ぬ。く。ま。す。う。み。も。あ。ご。り。や。糞。乃。お。く。た
る。實。は。成。さ。し。みる天道。まじく。い。ゆ。
冥。加。つ。さ。て。壽。命。ふ。さ。さ。る。り。是。不。善。生
の。第。一。なり。法。人。の。中。に。身。り。ら。と。殺。さ。ぬ
しても。う。の。身。一。代。を。病。長。命。なり。もの。も
あ。い。も。う。れ。い。幸。あ。て。ま。う。れ。ら。り。の。ま。れ
じ。餘。人。れ。も。ま。い。ぬ。さ。し。元。男。も。女。も。子
の。有。ら。づ。り。の。ま。れ。も。先。祖。乃。宿。悪。う。生
ま。つ。き。虚。弱。なり。う。告。生。の。不。信。ら。る。い。て。
子。ろ。た。れ。の。あり。家。門。相。續。れ。さ。ぬ。あ。は。

別腹と云ふ事。さきの如く。あつて。さうして天
道も。いふ。縁ふ也。子るれを不孝と云ふ也。
あつて。人。福む。中。答。あけ。き。き。も。去。り。子
乃。は。わ。り。是。も。相。續。り。而。も。さ。る。さ。る。な
り。ま。り。世。つ。づ。ぬ。求。け。り。あ。ま。り。ま。り。安。を
知。り。さ。る。れ。の。事。い。む。の。後。也。色。よ。な。づ。も。栄。耀
乃。あ。の。人。決。て。あ。き。ち。り。子。孫。ハ。二。番。
先。う。の。方。れ。命。を。じ。さ。る。の。さ。る。に。嫉。妬
の。つ。づ。い。て。家。を。ち。ろ。ば。一。國。を。失。ふ。と
あ。る。事。也。大。き。な。ち。ろ。ば。一。國。を。失。ふ。也。國。を

失。ふ。家。と。い。ひ。な。り。身。を。失。ふ。好。色。の。害
に。あ。つ。た。か。き。縁。を。妻。り。ま。り。て。は。再
婚。せ。ざ。ら。な。い。也。年。つ。ら。な。り。の。一。生
は。家。を。ち。ろ。ば。一。國。を。失。ふ。と。云。ふ。事。
さ。る。れ。義。理。と。外。を。い。ふ。人。さ。る。れ。
ば。け。ち。ん。で。貞。女。の。道。を。ほ。り。て。一。輪。貝。が
米。子。万。方。を。い。ふ。外。の。貝。と。合。と。竹。の。節。が
い。く。千。万。を。い。ふ。外。の。竹。と。あ。つ。て。これ。天
道。なり。あ。つ。て。不。義。あ。つ。て。嫉。妬。な。り。後。ハ。
く。つ。て。あ。つ。て。さ。る。事。也。犬。猫。や。虎。を。い。ふ。の。と。く。

畜生の作はなる事あり。男女ともに色欲
に大切。おそれるがよう。智慧ありけり。
是よりほふものなり。この候はるるてハ、氣
からふとるがよう。本氣乃沙汰いなり。

冥加訓卷之四

一脾胃とつゝの臟腑乃中ね。せられたる也。脾胃ハ土なり。本火土金水の五行也。本火金水乃五行ハ土より生ず。土乃生金と云々。土は人々脾胃と。そこはさうが第一なり。脾胃より實してあれば。外の四臟ハ。そのもの也。諸胃より上は口より下は肛トハ篩乃きぬの如し。飲食より入すに胃より入。胃中より入つて。けいこせて。小腸より入。小腸より入。大腸より入。大

瘵飲^レ疰^レ氣^レす白^レ多^レの^ヤ疾^レも^レせ^レご^レり^レなり。
元^レ来^レ天^レより^レう^レあ^レる^レ何^レハ五^レ臟^レ六^レ腑^レの^レふ
して^レ疾^レ病^レと^レい^レ臟^レ腑^レハ^レる^レた^レもの^レよ。親^レ乃
不^レ善^レ生^レその^レ身^レれ^レを^レて^レ。冥^レ加^レよ^レそ^レけ^レゆ^レ。
屋^レま^レし^レと^レなる^レ也。さ^レる^レあ^レる^レ。瘵^レ病^レ。瘵^レ病^レ。
能^レる^レや^レ。身^レを^レに^レる^レじ^レも^レ只^レと^レう^レこ
う^レる^レい^レ善^レ生^レの^レふ^レよ。よ^レけ^レま^レば^レと^レて。ち^レ氏
を^レ迷^レ惑^レで^レて^レい^レる^レの^レ身^レ乃^レ冥^レ加^レは^レき^レわ^レり^レゆ^レ。
天^レ乃^レと^レあ^レる^レを^レあ^レり^レて^レ善^レ生^レの^レ術^レハ^レ。誰^レも^レあ^レる^レて
益^レを^レる^レに^レこ^レの^レふ^レ乃^レ冥^レ加^レを^レ別^レち^レる^レの^レふ^レ也。

扱^レ脾胃^レハ^レ濕^レと^レき^レぬ^レなり。濕^レる^レた^レ地^レと^レあ^レる^レ。
家^レと^レ作^レる^レ。屋^レ鋪^レの^レふ^レ。沙^レを^レ二^レ三^レ尺
あ^レる^レ。沙^レハ^レ濕^レと^レき^レぬ^レもの^レ也。板^レを
の^レ下^レ。風^レを^レ吹^レと^レぬ^レと^レう^レ。風^レと^レき^レぬ^レと^レう^レハ^レ。
と^レ也。板^レと^レ地^レ氣^レハ^レ。身^レと^レう^レる^レと^レう^レ。同^レじ
く^レハ^レ板^レと^レう^レる^レと^レう^レ。竹^レ乃^レ簀^レ子^レぬ^レ。
身^レハ^レ中^レの^レ素^レを^レと^レく^レや^レう^レと^レう^レて。二^レ三^レ尺^レハ^レ。
と^レう^レべ^レ。脾胃^レハ^レ濕^レと^レき^レぬ^レも^レ。土^レ氣^レを^レバ^レこ
の^レひ^レなり。脾胃^レ乃^レ虚^レ弱^レ補^レふ^レべ^レき^レと^レう^レ。
白^レ本^レを^レと^レう^レき^レま^レせ^レ。炒^レ製^レは^レあ^レる^レ。括^レ間

乃壁も土よりなり。土よりなり。所に土氣を
くけられ。脾胃の皮もくすく。肌肉の皮も
薄くなり。人れ足のくろ。皮をりてくろ
く。くむくろく。土の氣はくろく。く
なり。足よりくものも。草履より。雪履は
わく。踏はく本綿より。皮はわく。風どく
洗より。わくく。天より皮と。くけをき
く。く。土民の簀子より。土民の靴
外より。實はく。皮肉わく。革はく
く。一生灸も。く。民間より。

事なり。親や兄乃言約と。なるふのな
 まば也。親や兄不行跡ありて。子やわふ
 けくあらし。あえく、らふてい。子たぐも。
 親をん。あうて。姑。弟たぐも。兄をん。あう
 て。姑ゆ。教訓も。まらば。表面。は。あふた。
 感んぜぶ。也。子方。あく。い。父兄の非を。
 せむ。い。あう。と。孝弟を。はく。と。が。うの。身。あ。
 第一の眞加。とな。也。よ。う。か。る。親や兄
 よ。よく。け。ふ。ら。が。一。倍。の。眞加。とな。也。を。角
 人。う。は。い。と。う。が。の。眞加。の。つ。な。中。う。母。

[illegible]

ちのいぢれやうなるも。凡情乃愚昧ゆへ。
 毫もみだして毒をくちせ。氣まきにやぶる。
 あまやうとゆへ成長とふふさうて。公根
 うくさう。又兄のちあーと用ひと。うて
 販をそ。異見をいふのをばうたつやに
 せん。利欲のむく日く長じ。あまうて
 酒色よみだれ。根無よまづも偽をいひ人を
 そうじ。文学武藝いふ。とまだ。鳥と取
 魚をつり。放埒なる跡。月ひぬくじ。大
 哲人うつじ。讀書算用とまうくとあ

ども。智慧才覚も。あつて。似合相急の役候
 もはくまりひて。天禄をひひく。はるこ
 のう。冥加うはく。優也。人い幼少の時の
 はまがたまきなり。木の枝うぶく。若き方
 つかひ。爪うはく。かき。車なる。大
 枝なる。斧鉞を用ひ。うの枝を。
 伐取ま。あつて。又草木の生る時。割本
 をうて。直り成長とふ。生るふ
 ちくをけべ。ゆぐと。直る。ちう。終む
 ちう。いふ。ちう。ちう。あつて。是の

父兄のあやまちなり。たうの人乃生得。下愚乃
うろづきなり。うろづき得る眞加を。つづ
く。ひやくするは。がさき也。

一君として。臣民をさぐり。中よりいふ事。領
分り。四のみる羽が。下のよめられ。一人とも。
羽が。下のと。う移る。飢寒。死亡。乃。へ。め
る。ふ。君の役目。のいざり。同。天の。め
る。眞加。つ。さ。ふ。事也。帝。堯。れ。大舜
。天。ト。と。ゆ。り。さ。ふ。事也。四海。固。新。セ
ば。天。祿。な。く。終。ん。の。さ。ふ。事也。天。祿。と

つ。は。糧。米。の。事也。ひ。の。聖。賢。さ。る。卑。み。
天。祿。と。大。事。さ。る。事也。む。な。り。れ。一。日
糧。米。さ。け。さ。い。の。ら。げ。う。ご。り。也。天。ト。ハ。多
り。國。家。た。も。ら。苦。学。さ。る。事也。果。竟。飲
食。と。も。つ。く。口。を。中。る。い。衣服。と。も。つ。く。身
を。ゆ。い。さ。ふ。事也。士。農。工。商。さ。る。同。じ。
王。公。大。人。乃。眩。と。大。さ。ふ。事也。上。ト。さ。る。卑
と。つ。い。身。の。分。限。と。さ。る。事也。裸。と。も。つ。く。
足。と。も。つ。く。五。体。も。頼。り。つ。事也。さ
る。乃。白。く。け。さ。る。事也。乃。さ。る。事也。上。ト

生れ合ふ方へ。つて下士農工商の力
て。中なるものなり。あらばトの士農
工商といふもの。下なるものなり。大切
重寶なるもの也。一日たて。うなるなり。
う終とあらたされて。天のうなるなり。
冥加のつとむる也。こそ難寡孤獨乃。
四民といふものなり。是とみわけるなり。
なり。難といふ。年よりて妻のなり。寡
といふ。年よりて夫のなり。孤といふ。
けりて。よきもの。獨といふ。年よりて

子のなり。もの外浪人非人といふものなり。
浪人といふ。君なり。非人といふ。波世
なり。ものなり。食物なり。いふ。口を
中なるもの。これ外又痛聲跛躄断疾侏
儒の類。是は五体不具の片端の國家
の用なるもの。告所のなり。ものなり。痛
つた。物なり。ものなり。なり。事也。聲とい
ふは耳のつれて。さるもの。盲目とい
ふは目。跛といふ。片足のなり。らんもの
なり。躄といふ。あはるもの。さるもの。断
なり。

疾くつゝ。五俵のくもさるやまゐ。俵儒とい。
一寸は師のふ。は親ハ一入。心をけりてお魚
くぐくく。あふが。君の役目なり。かくのおく
用。うゝあふのを。あぐと結ぶ。一入の眞分。
る。いゝあふ也。一俵一婢を。あゝはうふの。
君は君也。下人をあゝれ。朝夕の食物。公
をけき。扶持方。粮米。外月を減ぎん。は
さづ。い。大俵を合つ。と定め。汁ハ五斗。味
増と結さ。塩けや。糠味。増汁ハ。結さ。い。
と。五斗。味噌。うは。米糠。五斗。大豆。を斗。米

麹。五斗。塩。五斗。は。と。合。と。二十日。あて。用。也。
夏冬。と。い。湯。行。水。と。い。と。也。炎天。の。時。分
に。日。中。と。用。捨。一。寒。夜。は。九。つ。日。後。用。
於。と。い。と。い。擧。た。れ。用。事。力。を。免。
け。つ。で。湯。漬。と。い。酒。と。い。結。さ。と。い。
夜。あ。い。る。い。ぬ。夏冬。と。い。ふ。ア。切。う。仕。
着。の。者。さ。ら。ば。絹。油。布。本。綿。等。の。地。及
び。う。免。色。よ。つ。と。も。で。糸。束。と。い。さ。だ。い。
後。と。用。め。う。の。紙。は。う。と。い。と。い。持。切。
米。多。と。い。め。と。い。病。氣。の。時。分。は。藥

を用い。養育する。ついでに。又譜代を
男女と一生。ついでに。事。決。て。ついでに。
ついでに。男は。年。来。り。は。い。ふ。出。て
か。り。も。外。へ。出。て。立。身。を。も。う。せ。女。は。年。と
う。か。り。に。よ。縁。付。と。い。ふ。に。よ。て。支配。の。代
等。と。わ。さ。い。つ。の。う。ち。に。よ。け。さ。ば。て。た。い。と
と。あ。る。に。よ。り。事。也。あ。る。に。よ。り。少。の。事。は
も。奉。公。と。い。ふ。縁。付。の。事。に。よ。り。て。い。ふ。
て。い。ふ。事。の。も。ね。親。兄。弟。と。い。ふ。何。れ。に
よ。り。て。い。ふ。存。ぞ。ん。き。や。あ。る。に。よ。り。親。の

あ。る。に。よ。り。子。な。れ。い。ひ。て。あ。る。に。よ。り。同。じ
人。間。な。れ。い。ひ。て。仕。合。わ。る。に。よ。り。あ。る。に。よ。り。
つ。い。て。事。也。扶。持。切。米。と。い。ふ。に。よ。り。恩。め
く。け。け。い。と。い。ふ。に。よ。り。天。道。と。い。ふ。に。よ。り。
あ。る。に。よ。り。事。也。い。ふ。に。よ。り。明。て。と
い。ふ。に。よ。り。人。を。い。ふ。に。よ。り。あ。る。に。よ。り。
あ。る。に。よ。り。事。也。治。世。の。に。よ。り。い。ふ。
あ。る。に。よ。り。礼。世。と。い。ふ。に。よ。り。主。人。の。情。況。に。よ。り
い。ふ。に。よ。り。或。人。の。い。ふ。に。よ。り。あ。る。に。よ。り。
い。ふ。に。よ。り。何。事。も。堪。え。い。ふ。

つて。近きものぞ。わう。聞く。大車の係る
少人公儀。一とく。也。又太平記四十餘年
の軍也。まね。の秘物。より。なる。也。
大車の係を。おの。ち。する。もの。の。一。生
あ。い。ふ。れ。た。もの。の。也。彼。是。
て。悪。事。の。あ。つ。る。も。天。罰。なり。大。切。り。ま。と
わ。て。あ。つ。る。もの。の。又。秘。物。より。なる。
あ。つ。る。もの。の。一。目。なる。もの。の。
一。度。い。是。非。なる。もの。の。也。お。の。れ。は。い。
い。ま。る。也。妻。れ。方。より。何。事。も。ま。を。さ。る。い。

け。の。才。智。出。て。彼。是。と。擧。げ。て。い。ふ。も。
子。孫。と。い。ふ。も。衣。着。の。力。持。て。悪。事。の
出。細。を。大。切。り。ま。と。わ。る。も。の。の。お。の。れ。
一。と。い。ふ。ま。い。大。頃。なる。もの。の。お。の。れ。
一。と。い。ふ。も。不。便。と。い。ふ。も。の。の。お。の。れ。
お。の。れ。の。別。を。い。ふ。も。の。の。お。の。れ。
お。の。れ。の。身。を。か。つ。る。も。の。の。お。の。れ。
大。切。り。ま。と。い。ふ。も。の。の。お。の。れ。
て。さ。う。な。り。て。ま。を。さ。る。も。の。の。お。の。れ。
い。ま。る。も。の。の。お。の。れ。お。の。れ。は。嫉。妬。り。を

やまざりもの也。女乃がむ道理を極まり。この
心はちやうど。まのふけ候。まのわまり也。
子妻の外。またたか。かへさやう。妻
二かわれ。そのかみくをうさる也。その中。妻病
氣して。年経ても。子たれ。何とぞ。おのれい
ふ。妻も同公のさる。別腹と。いふまじき。
もの。よかれ。子孫相續。り。お。お。い。ま。なり。
おより。答。さ。け。こ。も。福。む。女。い。ま。う。の。け
わ。り。後。さ。れ。と。不。孝。れ。第。一。と。い。い。也。た。も
か。い。と。名。こ。の。お。さ。あ。ま。う。さ。人。本。妻。へ。り

わ。り。の。ま。さ。や。な。ま。さ。る。へ。お。く。停止。と。
さ。ま。也。第。一。家。四。つ。の。い。ど。ま。の。命。え。ど。
か。う。也。年。う。り。親。と。わ。ん。と。な。う。さ。ば。
親。の。ま。げ。と。妻。子。れ。歎。と。う。さ。ま。也。
栄。耀。の。奢。ゆ。大。事。の。命。と。さ。う。る。の。真。お。
の。は。ま。い。は。げ。妻。れ。方。より。さ。れ。ば。と。
ま。よ。さ。る。も。な。り。ぬ。と。せ。れ。あ。い。る。い。ど。是。
那。の。及。り。と。堪。あ。て。言。う。た。事。あ。り。た。
り。は。は。い。い。と。な。る。と。言。人。さ。う。子。
と。わ。り。子。の。心。の。い。づ。う。と。た。

加し。一入ふれうづなり。才徳をみる。知れり
秘する人といふは。乃びふれ也。でせうく一は。若
くも。貪欲邪見うろろり奥にあらはる
る。公の候と。上品にあらはる。さういふ
一の念い。ゆめもえんさうぐー

一 継母継子といふも。なうてふは。さうする
まも。是も後実子のせせう。さういふ可也
実子よ。さういふ。さういふ。さういふ。さうい
が。さういふ。さういふ。さういふ。さうい
の。さういふ。さういふ。さういふ。さうい

づ。このまゝと。さういふ。さういふ。さうい
た。なうて。さういふ。さういふ。さうい
め。義理の。さういふ。さういふ。さうい
け。實の子。さういふ。さういふ。さうい
う。さういふ。さういふ。さういふ。さうい
ま。さういふ。さういふ。さういふ。さうい
や。さういふ。さういふ。さういふ。さうい
ま。さういふ。さういふ。さういふ。さうい
は。さういふ。さういふ。さういふ。さうい
より。さういふ。さういふ。さういふ。さうい

事也。是も天より与ふべし。月之二位を
 占む。一人ありて。二人あるべし。一人
 一人なり。子孫おほく。先王嫡女の
 叔と。定む。おほく。姤女ハ去のけり。
 うねとよめあり。子あり。のち榮耀を
 このとれ。妻とあま。おほく。わらへ。
 子あり。胎にや生る。おほく。のち。
 一人妻と一人。おほく。非義の
 非義なり。事也。冥加がほく。いのち。

は。まき。まき。し。ひ。ひ。ひ。世のとうり。物。あ。は。人。も。わ。の。あ。う。本。公。の。全。徳。よ。が。い。世。を。ほ。ま。ぬ。と。う。う。仁。を。求。う。の。エ。ま。是。其。加。う。う。ま。れ。大。事。なり

一馬牛。大。猫。鶴。鶴。鶴。鶴。う。の。外。魚。鳥。飼。ま。事。并。魚。を。教。け。の。う。馬。の。御。家。乃。い。世。民。の。お。づ。の。人。間。れ。用。ま。う。う。た。く。て。う。い。さ。り。の。あ。う。大。豆。糖。素。の。人。食。物。よ。念。と。入。湯。洗。等。み。ん。を。ほ。ま。病。候。と。い。い。氣。と。つ。ま。の。告。は。い。と。う。荷。馬。の。道。中。サ。の。た。荷。に。

い。遠。道。を。と。う。ま。う。い。ば。荷。物。の。實。目。も。短。く。は。ま。て。う。う。う。牛。の。耕。作。れ。た。と。け。ま。車。と。い。う。セ。荷。を。つ。ま。て。人。力。と。あ。ま。う。る。ま。い。づ。の。思。う。と。の。あ。う。牛。馬。の。物。を。い。ま。の。ま。い。づ。一。か。ん。を。つ。ま。て。う。う。い。づ。う。ま。事。あ。う。い。其。加。の。ほ。う。事。也。大。は。里。遠。く。人。家。ま。れ。なり。而。は。監。人。の。用。を。飼。と。う。う。家。の。み。う。う。い。あ。う。あ。い。う。う。の。也。道。色。の。あ。う。の。う。ぬ。と。う。い。う。う。垣。壁。を。と。う。い。猫。を。取。あ。う。い。付。来。

乃人よくいふ。此犬と云ひて。友犬と云ふ。
狗子出来れば。縁谷すす。さうもいふた
事也。さればなして。事欠ん。つゞりもの也。
猫の荒と取ものされば。飼ふ可也。なまひ
時をけつる物なれば。まゐりなすもの也。村里
よく。時り。時や。を。靴の。同えぬ。飼ても
可也。さういふ。た。壇や。菜園とせり。隣家
への。米粟の。あつ。は。く。い。卵子。せ。い。
残り。ど。そ。と。ら。れ。い。で。と。あ。く。食。な。ば。生
と。さ。り。もの。不。仁。な。り。事。也。是。も。同。く。い。

く。さ。り。もの。也。猫。い。魚。と。り。さ。の。物。な。れ。い。
獵師の。畜。業。に。飼。ふ。可。也。な。ま。は。大。名。高
家。乃。用。い。さ。り。もの。な。り。て。あ。れ。と。殺。生。の
罪。多。き。な。り。な。れ。餌。な。り。小。鳥。と。殺。し。
土。餌。て。同。は。犬。と。殺。し。た。う。の。さ。鳥。と。さ。り
乃。妨。な。り。と。馬。や。犬。猫。と。さ。り。さ。の。外
人。民。の。さ。り。作。物。の。損。失。上。一。人。の。た。ぐ。さ。り
の。さ。り。さ。り。さ。り。の。サ。り。子。孫。乃。さ。り
さ。り。の。さ。り。冥。加。の。は。く。る。事。也。飼。ふ。い。さ。り
さ。り。の。事。は。な。り。ぬ。い。け。さ。り。も。親。い。子。と。い。い。

[illegible]

娘教訓歌百首 全二冊
 女教訓古今集 全二冊
 女今川教訓全書 全二冊
 女學則 全二冊
 女歌道全草 全二冊
 女教書大全 全二冊
 伊勢物語宗祇抄 全五冊
 女教訓歌百首 全二冊
 女教訓古今集 全二冊
 女今川教訓全書 全二冊
 女學則 全二冊
 女歌道全草 全二冊
 女教書大全 全二冊
 伊勢物語宗祇抄 全五冊

大坂心齋橋南四丁目

吉文字屋市兵衛

大本增補
真字引

全

眞字畫引ニテ字ヲ見ルニ甚早シ是ニヨツ
テ早引ト題ス早キ字ノ引ヤウ委ク右ノ
本ヲ見テ知ベシ奥ニイロハ引四射千字文
其外文字ノ要用ヲ集メノス

小本全二冊
并薄用摺

合本

唐音附改正增補此廣益大ニ他ノ三
重韻ニミサレリ

上ノ三書之熟

增益伊呂波韻

字引

字ヲ副シ文字
ヲ正シ誤ヲ改ム

ヲ正シ誤ヲ改ム

全

全四十冊

毛利貞齋撰

十二册

毛利貞齋選
學文ノタヨリニテ

ルコヲアツム

折本懷中本

無相文雄師闕○長ク廣ク見ル時ハ文字ノ
音韻明ラカニワカリ便利ナル昏ナリ

節用
懷中
捷徑
小本

本在

四季分平仄附袖中節用集 懷中
小本
文字ヲ正シ假名遣ヲ改和哥連併ニ用ル字
ハ春夏秋冬ノ季附ラリスベテ一字毎ニ平
仄ツケカ事ニ通達ノ節用ナリ

四季分平仄附袖中節用集

小本

增益伊呂波韻

文字訂正熟字八

